

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Dコート	第1試合 9:00~	
<チームA> 柏市立柏 千葉 3位		110 { 26 1Q 25 } { 25 2Q 36 } { 21 3Q 22 } { 38 4Q 21 }		<チームB> 埼玉栄 埼玉 3位	

【Bブロック】

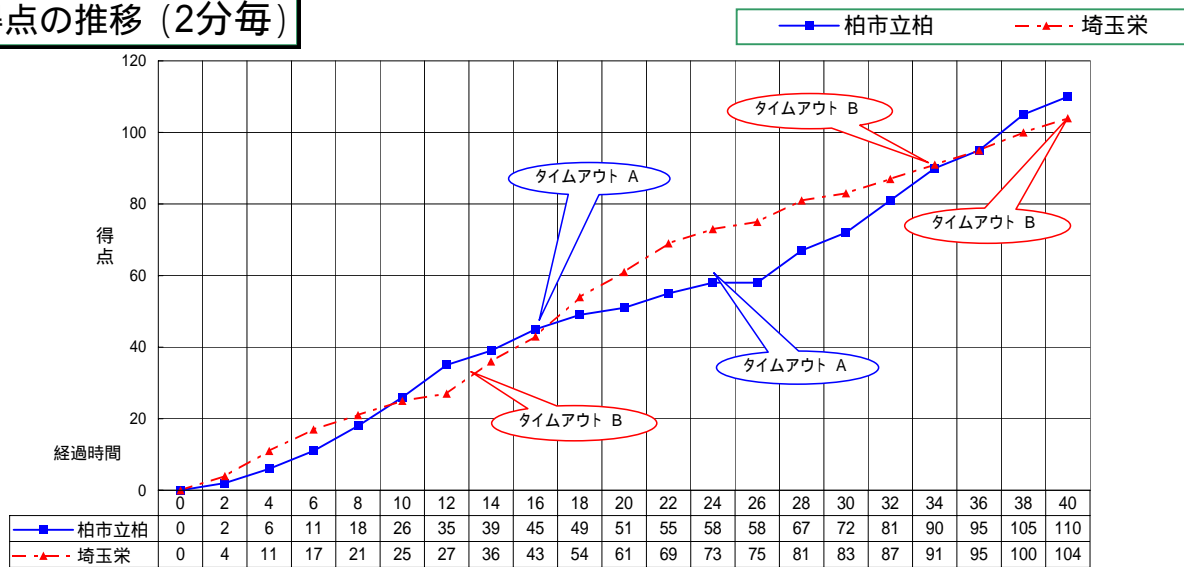
主審: 平 育雄(本部) 副審: 根岸 寿治(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	林 裕輝	18	2	6		3
	5	小山 哲	37	2	13	5	4
	6	吉田 開					
	7	大久保 和士	7	1	2		4
	8	小林 秀平	28	6	5		1
	9	佐々木 翔平					
	10	與那城 廣仁					
	11	石川 駿					
	12	菊池 優祐	14		7		3
	13	服部 雄登	2		1		1
	14	小杉 智希	4		2		1
	15	矢代 翔					
	16	牧 良輔					
	17	岡田 福嗣					1
	18	谷口 潤					
コーチ		稲野辺 聡					
合計			110	11	36	5	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	松井 成嗣	7	1	2		
	5	鈴木 貴士	16		7	2	2
	6	武内 健	31		13	5	1
	7	平田 匠	21	1	9		2
	8	竹本 龍司	2		1		1
	9	高橋 一真	25		10	5	1
	10	加藤 享佑					
	11	村松 翔太					
	12	四方田 尚大					
	13	佐藤 直輝					
	14	小嶋 友也					
	15	齊藤 壮秀					
	16	千葉 亮					
	17	照屋 広和	2		1		
	18	小野 凌					
コーチ		齋藤 光司					
合計			104	2	43	12	

:スターター / :出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記入者: 堀田 浩平

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。埼玉栄 高橋のジャンプシュートで幕を開ける。初戦の硬さからなかなかシュートが決まらない市立柏(以下 市柏)に対し、埼玉栄は 武内のリバウンドやポストプレイ、パス&ランを使ったコンビネーションプレイで確実に加点する。市柏はこのコンビネーションプレイについていけず、第1P残り4分、8点ビハインドとなったところでタイムアウト。タイムアウト後、市柏は 小林、林の3pシュートで逆転に成功し、26-25と1点リードで第1P終了。

第2P、市柏は 林のアシストから 小林の3pシュートで得点し、厳しいディフェンスで差を広げる。第2P残り8分、埼玉栄は27-35と8点ビハインドとなったところでタイムアウトを取る。タイムアウト後、埼玉栄は 松井の3pシュート、平田のジャンプシュートで追い上げ、残り5分、鈴木 の3pシュートで同点に追いつく。その後、両チームともミスが目立ち、相手のミスをより多く得点に結びつけた埼玉栄が61-51と10点リードで第2P終了。

第3P、埼玉栄のシュートがことごとく決まり、点差が広がる。市柏は16点ビハインドとなったところで、タイムアウトを取る。その後、埼玉栄のシュートが落ち始め、ミスも目立ち始めるが、市柏のシュートも決まらず、なかなか点差が縮まらない。それでも市柏は 林、小林を中心とした攻めで、点差を11点とし、第4Pへ。

第4P、市柏は 小山、大久保がオフェンスリバウンドを取り、流れを掴む。一方、埼玉栄は 武内、高橋のポストプレイで対抗するが、ミスが目立つ。第4P残り7分半、市柏はオールコートマンツーマンプレスを中心にディフェンスから仕掛け、波に乗る。ここで市柏は第4Pだけで21得点の 小山の3p、ジャンプシュート、リバウンドシュートなどの活躍で、一気に追いつく。さらに残り2分半、市柏は 小山のバスケットカウントで102-100と逆転に成功する。埼玉栄は残り2分、松井が5ファウルとなり、退場し、万事休す。その後も落ち着いてボールをキープした市柏が110-104で勝利した。